海上自衛隊鹿屋航空基地で4月11日、「エアーメモリアルinかのや2010」が行われ、約6万4400人の人出でにぎわいました。

会場には、朝から県内外の大勢の航空ファンや親子連れが訪れ、ずらりと並んだ自衛隊機に子どもたちが乗り込んで写真を撮ったり、ヘリコプターの中を見学したりしていました。

また、民間アクロバットチームのダイナミックな曲芸飛行や、P3C哨戒機の編隊飛行も披露されました。

P3Cの飛行は、大型の機体を巧みに操り、エンジンの一つを止めて飛んだり、正面から至近距離で交差したり、機体1機分の間隔で4機編隊が上空約100メートルの低空を通過するなど、日ごろの訓練で鍛えた高度な技を繰り広げました。

大型哨戒機のこうしたショーは世界でも珍しく、国内ではここ鹿屋だけとあって、迫力ある編隊飛行に、空を見上げた大勢のファンから歓声と大きな拍手が送られていました。

また、駐機場には他の陸・海・空自衛隊基地から招待された約20機種の航空機やヘリコプターが並んだほか、格納庫では、模擬ミサイルや魚雷を搭載したP3C哨戒機の初展示もあり、訪れた人たちは隊員から話を聞き、興味深そうに見学していました。

また、航空機の展示スペースでは、隊員らのヘルメットをかぶることもでき、子どもたちはパイロット気分を味わっていました。